

近代化産業遺産

明延の町並み



文化財ミニパンフ

近代化産業遺産群 33 平成 19 年 11 月 30 日 経済産業省認定

明延鉱山は、日本全国で産出する錫の約 90% を産出していました。三菱金属株式会社の子会社である明延鉱業株式会社が経営し、昭和 62 年に閉山しました。明延には、明延鉱山が経営した明盛共同浴場（第一浴場）があり、外観は当時のまま残っています。平成 19 年、経済産業省が認定した近代化産業遺産の一つになりました。明延には他にも、観音町共同浴場（第二浴場）・坂ノ谷・東山・北星・旭山など全部で 6 か所の共同浴場がありました。

明延の町は、明延川にそって長さ 1,300 m もある細長い町並みで、観音町・北星・東山・坂ノ谷・明盛など多くの社宅が作られました。明延の中心部には、協和会館や娯楽館、明延病院や購買会など、従業員のための施設が作られました。そして本町には、電気店や飲食店、宿屋や理髪店などの個人商店が並んでいました。

こうした平地部から 100 m ほど高い山上にも旭山・妙見地区などの社宅が作られ、昭和 30 年頃まで使われました。大仙本部から水平に続く「五節ズリ捨て線」という線路ぞいに作られたものです。

明延と神子畑の間には、昭和 4 年に明神隧道が完成し、4 トン電気機関車で鉱石を運搬しました。昭和 16 年には明神電車の輸送力増強のため、軌道を 500 mm から 762 mm に拡張し、10 トン電気機関車の運搬が始まりました。また神子畑には、昭和 8 年 5 月に錫選鉱場が竣工し、昭和 13 年には銅・錫の 1 ヶ月取扱量が 22,000 トン、さらに昭和 14 年には 32,000 トンになりました。採掘・輸送・選鉱の能力が大幅にアップし、従業員数や人口が増加しました。

昭和 11 年に北星の長屋、昭和 27 年に北星のプレコン、昭和 30 年に明延病院、昭和 32 年に新しい協和会館が完成しました。明延小学校の児童数は昭和 34 年に 784 人になりました。大正時代から昭和前半にかけて人口が爆発的に増加し、山間部にある明延に人口 4,167 人（昭和 31 年）の鉱山都市が出現しました。



鉱山学習館（旧明延鉱山西部採鉱事務所）



あけのべ自然学校の入口と山神宮跡の階段



観音町の社宅跡にある明延の一円電車



旧明延鉱山明盛共同浴場（昭和 9 年建築）

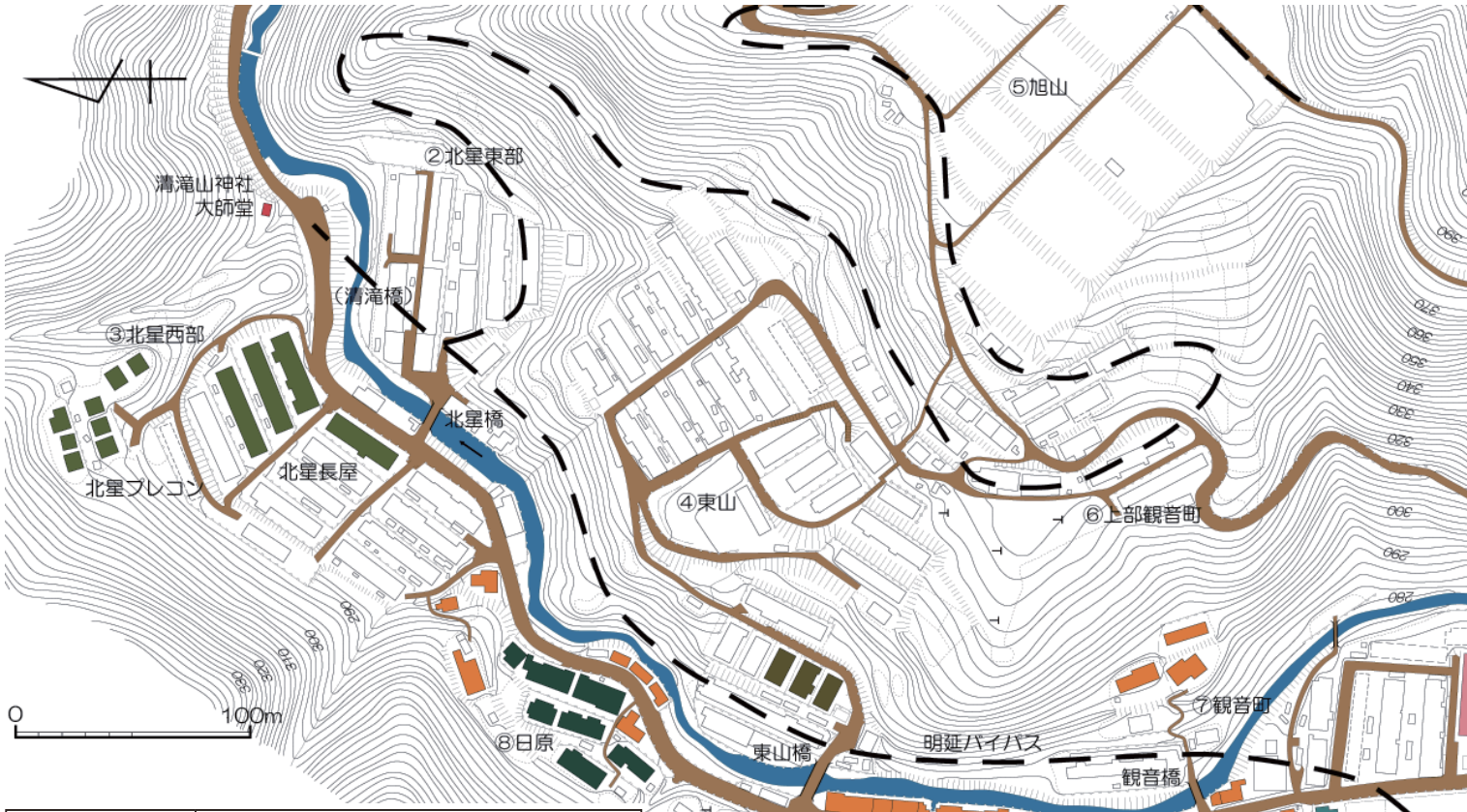


北星地区・東山地区の明延鉱山社宅（昭和60年頃）

人口約 4,000 人の鉱山都市
明延鉱山町
 明治 42 年から昭和 62 年まで近代化を推進



明延小学校と本町付近（昭和60年頃）

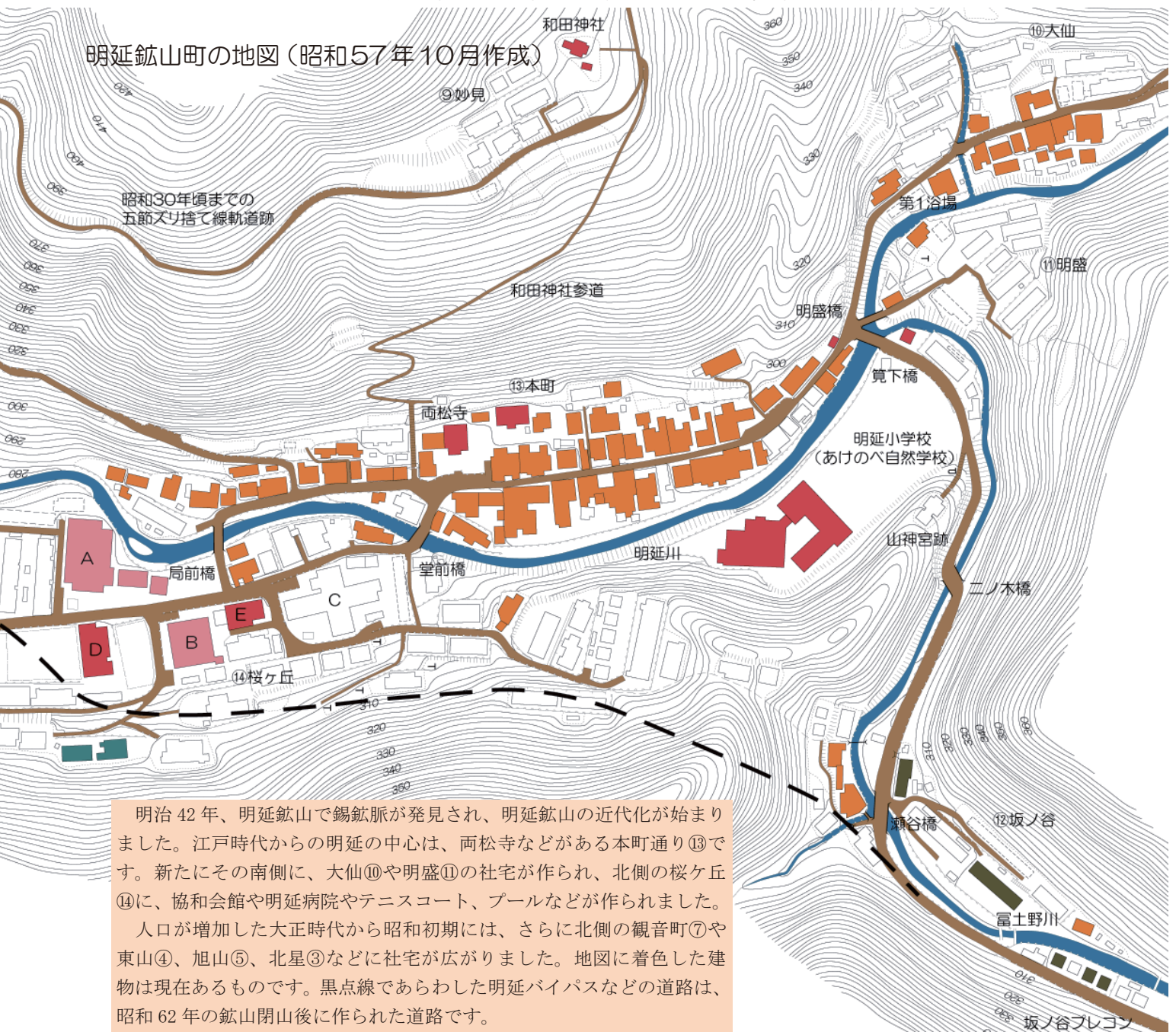


見学場所	見学説明
あけのべ自然学校	平成元年に明延小学校を改修してオープンしました。明延の観光案内もします。
あけのべ憩いの家	明延のイベントではメイン会場になります。テニスコート跡に建てられています。
一円電車	月1回の運行をしています。昭和48年製の電気機関車が客車くろがね号を牽引します。
明延鉱山学習館	明延鉱山西部探鉱事務所を改修し、鉱山道具や鉱石を展示しています。見学申込はあけのべ自然学校。
明延鉱山電車展示館	学習館の前に、10トン電気機関車・5トングランビー鉱車・赤金号を展示しています。
明延鉱山探検坑道	明延の坑道は総延長550kmあり、このうち延長約650mが見学できます。見学申込はあけのべ自然学校。
両松寺	文禄5年(1596)に製造された、明延銀山と文字を刻んだ梵鐘があります。本尊は薬師如来坐像。
山神宮跡	ヤマを守った山神宮跡です。狛犬や玉垣はありますが本殿は撤去されています。
旧協和会館	昭和32年建築。収容人員1,150人の映画館・劇場で、当時は但馬最大のホールでした。現在は工場になり、立入禁止です。
旧明延購買会	米・魚・野菜・衣料・電気製品など、なんでも揃う但馬最大のスーパーマーケットでした。現在は工場になり、立入禁止です。
川にせり出す民家	明延川にせり出した民家が多くあります。道路側は2階建、裏側は3階建です。人口密集地帯の明延を象徴する建物です。

明延の地区と社宅など			明延の地区と社宅など		
1	大岩地区 鉱員住宅 地図外	昭和30年建設	12	坂ノ谷地区 鉱員社宅大正2年～昭和31年建設	
2	北星東部地区 鉱員社宅	昭和8～13年建設	13	村(民間地区)	
3	北星西部地区 鉱員社宅	昭和8～29年建設	14	桜ヶ丘地区 職員社宅・会社施設	
4	東山地区 鉱員社宅	昭和9～34年建設	A	協和会館	昭和32年建築
5	旭山地区 鉱員社宅	昭和13～26年建設	B	明延購買会	昭和38年建築
6	上部観音町地区 鉱員社宅	昭和27～30年建設	C	明延病院	昭和30年建築、現在撤去
7	観音町地区 鉱員社宅	昭和4～36年建設	D	明神道場	昭和39年改修、現在建替
8	日原地区 職員社宅	昭和18～27年建設	E	南谷郵便局	昭和32年建築
9	妙見住宅 職員社宅	大正2年～昭和29年建設	F	明延駐在所跡	
10	大仙地区 鉱員社宅	大正3年～昭和27年建設			
11	明盛地区 鉱員社宅	昭和6～15年建設			



明延病院・協和会館などがあった明延の中心部（昭和60年頃）



明治42年、明延鉱山で錳鉱脈が発見され、明延鉱山の近代化が始まりました。江戸時代からの明延の中心は、両松寺などがある本町通り⑬です。新たにその南側に、大仙⑩や明盛⑪の社宅が作られ、北側の桜ヶ丘⑭に、協和会館や明延病院やテニスコート、プールなどが作られました。人口が増加した大正時代から昭和初期には、さらに北側の観音町⑦や東山④、旭山⑤、北星③などに社宅が広がりました。地図に着色した建物は現在あるものです。黒点線であらわした明延バイパスなどの道路は、昭和62年の鉱山閉山後に作られた道路です。

●北星地区にあるプレコン工法の社宅

北星地区や坂ノ谷、観音町、妙見、桜ヶ丘の各地区には、プレキャストコンクリート工法（略称でプレコン）による2階建や3階建の社宅がありました。昭和29年に、北星や坂ノ谷にプレコン工法の社宅が建設され、これが明延鉱山で最初のプレコンになりました。

プレコン工法は、工場で作った鉄筋コンクリートの柱やパネルを輸送して現地で組み立てる方法です。東京工業大学の田辺平学教授たちが昭和24年に開発しました。

昭和30年11月には明延病院、昭和32年には新しい協和会館が完成しました。当時としては日本でも最大規模のプレコン建築です。北星地区のプレコン工法の社宅は大規模なプレコンを作るための試験にもなったのです。現存する日本最古のプレコン建築です。

●北星地区にある社宅

北星地区には、長屋とプレコンの2種類の社宅があります。長屋社宅は昭和11年の建築です。14棟（住宅76戸）の長屋が造られ、その内4棟（住宅14戸）が残っています。長屋は1棟が長さ33.180m、幅5.677mで、5戸の家族が入居していました。

1戸について2畳の玄関土間、3畳の台所、押入、便所、洗面所があり、和室は3畳・6畳・4畳半が各1室、風呂はありません。しかし明延鉱山が経営する6か所の銭湯が無料で利用できました。その後、昭和44年頃、住宅2戸を1戸に改修して風呂を設置し、長屋1棟を住宅3戸として利用しました。

昭和29年建設のプレコン社宅は、コンクリートを利用した火災につよい建物です。正面7.190m、側面7.190mの2階建です。1階と2階を各1戸が利用しました。台所は6畳、洗面・便所・玄関と合わせて4畳、和室8畳・6畳が1戸です。現在のマンションの祖型になる貴重な建物です。

地区	総戸数	使用戸数	空舎	家族人数
明盛地区	119	93	26	370
本部地区	52	48	4	228
東山地区	149	101	48	243
北星地区	125	110	15	326
旭山地区	126	9	117	13
南谷坑地区	18	5	13	28
職員社宅	51	51	0	191
	640	417	223	1399

明延鉱山の社宅数（昭和22年5月）



4棟の長屋と8棟のプレコンがある北星地区



北星プレコン社宅（昭和29年建築）



北星長屋社宅（昭和11年建築）



箕下橋付近の商店



本通りにあった百貨店



堂前橋付近の川にせり出した住宅



東山付近の旧商店街



桜ヶ丘の中心部